

2024年度 学校法人修道学園 事業計画  
 〈広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校〉

主要項目	具体策	所管部局	実施月
<b>I 協創教育の推進</b>			
1. 教育目標達成の取り組み	①生徒及び教職員が「建学の精神」(報恩感謝・実践)並びに「教育目標」(グローバル・イノベーション・リーダーの育成)の理念を意識した教育活動を行える環境を整え、この理念を全教職員が言語化できるように努める。 ②本校で行うすべての教育活動を「協創教育」と位置付け、その基軸に探究的な学びを据え、教育目標の達成を目指す。	全教職員、管理職	通年
2. 「探究力」(4つの力＝課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	①教育目標達成のための「探究力(4つの力)の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用法について再考し、評価を試みる。また、「教科別ルーブリック」のブラッシュアップも図り、協創ルーブリックとの整合を図る。	全教員、協創教育部	通年
3. GCP(グローバル・コンピテンス・プログラム)の推進	①教科横断型で特色ある授業のGCPを探究活動の中で取り組み、「探究力」(4つの力)の向上を目指す。	教務部	通年
4. 国際理解教育の推進	①海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。 ②広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部	通年
5. ICTを活用した教育の推進	①ICTを活用した授業づくりを教員間で共有し、協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	協創教育部	通年
<b>II 学力の向上</b>			
1. 学力向上の取り組みの充実	①「予習⇒授業⇒復習」のサイクルを確立し、自学自習力を高められる授業内容や指示の出し方を工夫する。 ②「ノーチャイム」などによって生徒の自立的な時間管理を促し、授業に向かう姿勢の向上を図る。 ③10分間の朝読書を一日の学びのスタートとして位置づけると共に、読書活動の環境整備の一助とする。 ④LRC(ラーニング・リソース・センター)の生徒の利活用を促進する。また、各授業との連携・利活用を促進する。	教務部	通年
		教務部、学年会	通年
		教務部、学年会	通年
		教務部、各教科	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 「探究力」を目指す授業づくりの促進	①参加型授業や探究的な学びを促進し、生徒主体となる授業の研究・実践を行う。 ②新たな「探究」授業の深化を図り、その充実に取り組む。	教務部、探究推進委員会 探究推進委員会	通年 通年
<b>Ⅲ進路支援の強化</b>			
1. 組織的な進路支援の取り組み	①「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。 ②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。 ③「協創スマート予備校」など、効果的な補習体制のもと、進路希望に応じた補習を実施する。 ④模擬試験の結果を分析し、教科指導に活かすと共に、個人面談を行い、進路実績につなげる。 ⑤2025年度からの修大・進学コースの改編に向けた具体的な取り組みなどを示す。	進路支援部 進路支援部 進路支援部 進路支援部 進路支援部	通年 通年 通年 通年 通年
<b>Ⅳ自立(自律)心の育成</b>			
1. 規範意識や倫理観の育成	①建学の精神を具現化する「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)を合言葉にし、徹底を促す。 ②協創生として自覚すべき協創スタンダード「AIM HIGH」(高みを目指す)につながる取り組みを実施する。 ③登下校の交通安全、SNSに関して等のルールやマナーの順守を徹底させる。	生徒支援部 生徒支援部 生徒支援部	通年 通年 通年
2. 学校生活の活性化	①生徒自治会を中心に生徒が企画・運営をすることで、体育祭、文化祭、協創コンテストなどの行事内容の充実を図る。 ②生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。 ③生徒目線での「校則見直し」を教員と一体となって取り組み、継続的に行う。 ④生徒が部活動に積極的に取り組むことで学校の活性化につながるよう、部活動加入についての啓発活動に取り組む。	生徒支援部 生徒支援部 生徒支援部 生徒支援部	通年 通年 通年 通年
<b>Ⅴ教育力の向上</b>			
1. 教員研修の体系化及び実施	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。 ②教育データを活用し、教員による「わかりやすい授業」から、生徒が「自ら考え学ぶ」ことを意識した授業展開における工夫に取り組むことで、生徒の主体性を育てることができる授業改善に取り組む(外	教務部 教務部	通年 通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
	部講師の支援による研修を通して実施)。		
2. 公開研究授業の実施	①授業力向上を目的とした公開研究授業を実施する	教務部	11月
3. 授業評価と授業アンケートの実施	①新たに設置する教育アドバイザーの指導・助言及び評価に基づき授業力の向上を図る。	教務部	通年
	②授業力向上のため、生徒による授業アンケートを実施する。	教務部	6月・11月
4. 評価指針の作成	①授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年
	②「学校評価アンケート」(生徒、保護者、教職員)を実施し、結果を分析して具体的な改善策を提案する。なお、アンケート項目については見直しをする。	教務部	7月・12月
5. 指導と評価の一体化の取り組み	①新学習指導要領の導入に伴って、学習指導と学習評価の一体化に取り組む。	教務部	通年
<b>VI生徒募集の充実</b>			
1. 戦略的広報活動の実施	①オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。また、中学入試に向けたミニオープンスクールを新たに実施する。	企画広報部	通年
	②ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでの発信をこれまで以上に充実させる。	企画広報部	通年
	③小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部	5月～11月
<b>VII学校組織力の強化</b>			
1. 組織体制の充実	①「凡事徹底、進取果敢。」を合い言葉にし、「協創」意識と同僚性を重視した組織を目指すため、中期事業計画に基づいた年度事業計画を踏まえて、各部が主体的に考え、行動できる体制を構築する。また、その振り返りを全教員で共有する。	全教職員	通年
	②年度事業計画に基づき、校務運営会議、教科主任会議、学年会、部会等での昨年度の評価・振り返りを踏まえた教科別等事業計画を作成し、実施する。	管理職、教務部	通年
	③研修主任及び中高一貫教育担当を中心に、教職員研修及び中高一貫教育体制の充実を図る。	教務部	通年
2. 人事評価の実施	①適正な評価に基づいて教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として策定した「キャリア・アップ・シス	管理職	通年

主要項目	具体策	所管部局	実施月
Ⅷ事務室の機能強化	テム」(人事評価制度)を活用し、教職員の成長を支援する。		
	①「キャリア・アップ・システム」(人事評価制度)を活用し、事務室の企画、財務面の機能強化を図る。	事務室	通年
	②教職協働の考え方にに基づき、事務職として学校経営に積極的に参画する意識の醸成を図る。	事務室	通年
	③施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理に努める。	事務室	通年
	④教職員の勤務管理を適切に行うと共に、健康の保持増進に努める。	事務室	通年